



# 但馬国府・国分寺館ニュース

2005.10 創刊号

編集・発行

但馬国府・国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町袴布 808  
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112  
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunji/kan/  
e-mail kokubunji@city.toyooka.lg.jp



久田谷銅鐸（豊岡市日高町久田谷出土）文化庁 蔵

## 第2回企画展を開催しました

平成17(2005)年7月21日(木)から9月20日(火)まで、第2回企画展「新豊岡市を考古学する① 豊岡のあけぼの—旧石器時代から弥生時代—」を開催しました。

今年4月1日、豊岡市・竹野町・城崎町・日高町・出石町・但東町の1市5町が合併し、新「豊岡市」が誕生しました。「新豊岡市を考古学する」は、新市内にある数多くの貴重な出土品を、時代別に4回に分けて紹介する企画展です。第1回目は、旧石器時代から弥生時代までを扱いました。

展示の目玉は、銅鐸。但馬地域では、3遺跡で6個体の銅鐸が見つかっています。その3遺跡はすべて豊岡市にあり、豊岡の銅鐸＝但馬の銅鐸と言うことができます。今回の展示では、重要文化財の気比銅鐸（展示は複製品）や、県内初公開となる久田谷銅鐸など、但馬の銅鐸6個体をすべて展示しました。

期間中、1200人以上の方にご観覧いただきました。豊岡の歴史の奥深さや、自然とともに暮らしていた古代人の心を感じていただいたものと自負しています。



展示風景

### ■主な展示品

<旧石器時代>・大内谷遺跡出土 ナイフ形石器

<縄文時代>・見蔵岡遺跡出土 縄文土器・石棒など

・伊府遺跡出土 局部磨製石器

<弥生時代>・重要文化財 気比銅鐸（複製）

原品：東京国立博物館 蔵

複製：辰馬考古資料館 蔵

・女代神社遺跡出土 銅鐸鍍片

・久田谷遺跡出土 銅鐸片（文化庁 蔵）

企画展より 「<sup>どうたく</sup>銅鐸の美と<sup>なぞ</sup>謎 —<sup>けい</sup>豊岡市気比出土 気比銅鐸は語る—」

9月20日に終了した、第2回企画展「新豊岡市を考古学する①」。その展示の目玉は、豊岡市<sup>けい</sup>気比から出土した4個の銅鐸<sup>どうたく</sup>でした。実物は重要文化財に指定され、東京国立博物館に収蔵されているため、今回は西宮市にある財団法人辰馬考古資料館より複製品を借用してきました。

気比銅鐸が見つかったのは、大正元(1912)年。多くの文献で紹介された著名な資料なのですが、発見後間もなく東京帝室博物館(現 東京国立博物館)に納められたため、長らく地元の人たちの目に触れることはありませんでした。今回、複製品と言えども久々の里帰りとなりました。

1号鐸

2区流水文銅鐸  
総高 45.9cm



(A面)

2号鐸

2区流水文銅鐸  
総高 45.2cm



(B面)



(B面)



気比銅鐸には、さまざまな絵が描かれています。題材は、人物をはじめ、シカやトンボ、魚、スッポン、トカゲなど。描かれる場所はバラバラで、時には文様と文様の間のわずかな隙間を利用して描いている例も見られます。それはまるで、隠し絵のよう。そんな気比銅鐸の魅力を最大限伝えるためには、銅鐸の両面が見えるように並べるのが理想なのですが、展示スペースの関係から、片面しか見ることの

できない展示となってしまいました。

それで、誌上ではありますが、気比銅鐸の両面の写真を掲載することにしました。銅鐸の絵を眺めていると、そこに込められた弥生人の心が感じ取れるかもしれません。

\*掲載の写真は、東京国立博物館の許可を得ています。無断での転載等は固くお断りします。

流水文銅鐸(1号~4号) 兵庫県豊岡市気比字溝谷出土 東京国立博物館所蔵  
Image: TNM Image Archives Source: <http://TnmArchives.jp/>

3号鐸

4区流水文銅鐸  
総高 44.3cm



(A面)



(B面)

4号鐸

3区流水文銅鐸  
総高 44.5cm



(A面)



(B面)

# 但馬国府・国分寺館 名品ギャラリー

## ① 白磁輪花皿 はくじりんかざら 祢布ヶ森遺跡出土 9世紀



白磁とは、白い胎土(素地)に透明の釉薬をかけて焼いた磁器のこと。中国で6世紀に生産が開始され、8世紀に日本へもたらされました。

当時、日本には釉薬をかけた焼き物は存在しませんでした。白く光り輝く白磁は、上級の役人でさえなかなか手に入らなかった最高級品です。特に、9世紀の白磁はととも珍しく、これほど残りの良いものは全国でも数えるほどしかありません。

この白磁が見つかった祢布ヶ森遺跡は、延暦23(804)年に移転してきた但馬国府の跡とされます。但馬を治めていた国司が愛でていた、自慢の一品だった…というのは、想像が過ぎるでしょうか。

## お知らせ

### 第3回企画展「新豊岡市を考古学する② 豊岡のはばたき—古墳時代—」開催中!

新「豊岡市」の貴重な出土品を集め、時代ごとに紹介するシリーズ「新豊岡市を考古学する」。第2回目は、古墳時代を扱います。

兵庫県指定文化財を含む、銅鏡や埴輪などさまざまな品が、皆さまを古墳時代へと誘います。この機会にぜひご来館ください。

#### ■主な展示品

- ・入佐山3号墳出土 方銘四獣鏡(豊岡市出石町)
- ・馬場19号墳出土 方格規矩八禽鏡(朝来市山東町)
- ・袴狭遺跡出土 船団線刻画木製品(豊岡市出石町)
- ・池田古墳 出土埴輪(朝来市和田山町)
- ・小山古墳群出土 銅鏡、短甲、玉類(豊岡市日高町)
- ・赤坂古墳第2号墳出土 須恵器(豊岡市但東町)
- ・大谷2号墳出土 銅鏡(朝来市和田山町)

■会期 2005年11月23日(水・祝)まで。

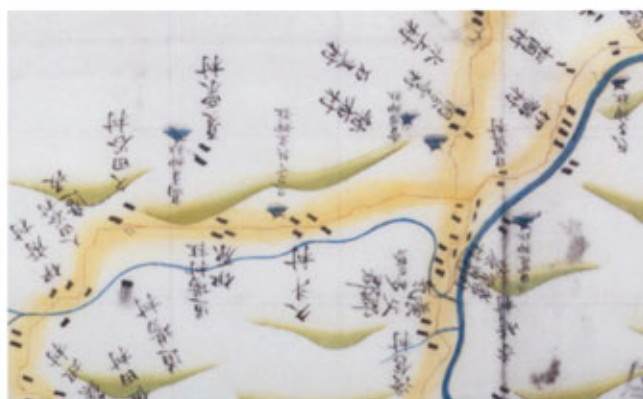
### Topics 情報満載! 国分寺館ホームページ

但馬国府・国分寺館では、ホームページを開発しています。職員が試行錯誤しながら手作りしているため、不十分な点もあるとは思いますが、最新情報をはじめ、博物館のウラ話や掲示板など、さまざまなメニューをご用意しております。ぜひ一度、ご覧ください!

<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

### 第1回ミニ企画展「江戸時代の但馬—アメリカで見つかった伊能大図—」を開催しました。

文化11(1814)年、伊能忠敬らが但馬を測量しました。その記録集『測量日記』には、但馬国分寺跡や国分尼寺跡の記録が残っています。2005年6月3日~7月31日まで開催した第1回ミニ企画展では、平成13年にアメリカで見つかった、但馬国関連の伊能大図を展示しました。50歳を過ぎて測量を始めた伊能忠敬の努力に脱帽です。



国土地理院蔵 伊能大図(米国) 彩色図  
但馬国府・国分寺館周辺の部分。「国分寺村」などの地名が見えます。(上が北)

## 但馬国府・国分寺館 ご利用案内



但馬国府国分寺館  
Museum of Tainuma Kokufu and Kokubunji

- 開館時間: 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日: 毎週水曜日(祝日の場合は開館し翌日休館)  
年末年始(12月28日~翌年1月4日)
- 入館料: 大人500(400)円、高校生200(150)円、  
小中学生150(100)円 / ( )は20名以上  
\* 県内の小中学生は無料 \* 65歳以上の方は半額